

子供たちが本気になるPBLの10の要件と、ベースとなるユニバーサルデザイン（UD）の視点



令和6年夏に実施した「学級経営リフレクション」では、「UDの視点を取り入れ、どの子供にとって過ごしやすい教室環境づくりに努めているか」の項目が有意に低いという結果が出ています。

心理的安全性が確保された学級づくりや、PBLの推進のためには、すべての児童生徒が学習に向かえるようにするための「**授業のユニバーサルデザイン化**」の視点が重要です。

ここでは、子供たちが本気になるPBLの10の要件と、ベースとなるユニバーサルデザイン、それぞれの視点からのポイントを加えて解説します！

〈PBLの視点〉

- ☐ 目の前の子供たちの学習経験やその経験から得られた成果について把握していますか？
 - * 前学年の担任等から話を聞く（どのような材で、どのような活動をしたか等）。
 - * 子供たちから直接話を聞く、子供たちにアンケートを取る。等
- ☐ 子供たちが材との関わり合いを深め合う姿を思い描いていますか？
 - * **教材の特性**を明らかにしたり、**単元の中心的な活動**を明確にしたりすることが重要。教材の特性については、ウェビングを使用し、次の点を明らかにする。
 - ◎繰り返し対象に関わることができるか。
 - ◎学習活動が広がり、発展していくか。
 - ◎実社会や実生活について、多面的・多角的に考えることができるか。
- ☐ いきなり解決策を考えるような単元構成になっていませんか？
 - * 「給食の残食があるので給食のよさを伝えよう」といった、問題に対してすぐに解決策（HOW）を出すのではなく、「なぜ給食が残るのか」という**原因（WHY）を追究**したり、先行事例を調べて分析する活動をした後に解決策を考えたりするよう促すことが大切。
- ☐ 子供がもっている知識を関連付ける活動を設定していますか？
 - * 単元を通して材に関する知識（●●は▲▲である）を多く獲得する。これらの知識をそのままにしておくのではなく、クラス全体で**話し合う場面で単元の中に意図的に設定**することが必要。その際、教師は**板書**で子供たちの思考を整理することが有効。
 - ※知識を関連付けて考えることで、**概念的な知識**を獲得することにつながる
- ☐ 想像の世界やネット等の情報だけで議論していませんか？
 - * 防災に関わる活動を行うのであれば、日々防災の仕事に携わる人々の思いや願いを聞く活動を設定したり、そうした人々から自分たちの活動についてフィードバックをしてもらったりする活動を単元の中に必ず位置付けることが重要。
- ☐ 子供たちの活動の様子をよく見ていますか？
 - * 本単元（本時）の**評価規準**に基づき、子供たちの活動に対して評価を返していくことが必要。
 - * **価値付け**を行う際には具体的に何がよいのかを言語化し伝える。「〇〇がいいね」「〇〇しようとしているところがゴールに向かいそうだね」
 - * **意味付け**を行う際には、本時のねらいに対して子供たちの考えたことを言語化し伝える。「Aさんが言っていたことは『●●』ということかな？」
- ☐ 授業の中で先生だけが話し過ぎていませんか？
 - * 子供たちが活動を通して思考したことをアウトプットし、自覚するために**思いのたけを語る時間を確保**することが重要。また、自らの考えがよりよい課題解決につながっていくかどうか吟味するためにも**自分の言葉で語る**ことが重要。

子供たちが本気になるPBLの10の要件と、ベースとなるユニバーサルデザイン（UD）の視点

- * すべての学校活動において、**子供を主語にした学び**を目指している。
 - * 学校教育目標に基づき、各教科等を**横断的・系統的**に設計し、組織的に取り組んでいる。
 - * 安心して自由な発言ができる**心理的安全性を意識した環境づくり**を行っている。
- ことが大前提です。

教育におけるユニバーサルデザインとは、「**すべての子供にとって分かりやすく学びやすい教育をデザインすること**」です。ここでは、①取り組みやすくすること、②理解しやすくすること、③選択肢を用意することについて特に取り上げます。

〈ユニバーサルデザインの視点〉

- ☐ 子供たちの興味・関心を活かした単元構成になっていますか？
 - * 興味がないことは学びにくいので、**子供たちが自己決定したと感ずることができ**るような**単元構成**にすることが重要。そのためにも、単元設計の前に子供たちの実態を把握することが必要。
 - * 意図的に各教科等で学習した内容を取り入れることや、「自分だったらどうする？」と、課題を自分事につなげる問いを組み込むこと。
- ☐ 「一人一人にあった支援」は充実していますか？
 - * 子供たちが「難しすぎる」と感じたり、「自分にはできない」と感じたりすると、探究し続けることができないため、実態に応じた支援が必要。そのためには、**実態に応じてどのような支援が必要かを単元設計の段階で検討しておく**ことが大切。
 - * 「一人一人にあった支援」とは、ステップを踏み出すために必要な踏み台を置くイメージ。子供の実態によって、様々な選択肢から踏み台を選択できることが重要で、すべての子供に同じ踏み台を用意することではない。例えば、「思考を整理することが難しい児童生徒」である場合、思考ツールやひな形を提示して文字言語で整理したり、動画で自分の考えを音声言語として整理したりできるような支援の選択肢を用意しておくことが大事。
- ☐ 子供たちが生活や社会とのつながりを感じながら学べていますか？
 - * 探究テーマを深めるためには、本物を肌で感じられるように、**具体物や身体性を発揮できるもの**など、予め単元の中に意図的に設定しておくことが大切。
- ☐ 学習環境は整理（構造化）されていますか？
 - * 時間の構造化：**単元全体や本時の流れを目に見える形にしておく**ことで、見通しをもって参加できるようにする。
 - * 場の構造化：**必要なもの・情報・支援の選択肢の所在を分かりやすくする**ことで、子供たちが自分自身でアクセスできるようにする。
 - ※必要な時に友達と相談をしながら学習を進めるといったことも含まれる。
- ☐ グループ活動の際に、「話し合しましょう」とだけ伝えていませんか？
 - * 単に「話し合しましょう」では話合いの視点が散らばってしまいかねないため、**話し合う視点を子供たちに明確に示した上でグループ活動を行い**、何のために話合いを行うのか子供たちと共有することが重要。
 - * 予め次の点を子供たちに示した上でグループ活動を行うと、視点が明確になる。
 - ◎何のために（目的）
 - ◎何を（情報）
 - ◎どのように（過程）
 - ◎目指すゴール（成果）
 - * 例えば、「活動の改善策を話し合う」場面では、「活動をよりよくするために（目的）、アンケート結果を（情報）、思考ツールを使って整理し（過程）、新たな課題を見つけよう（成果）」のようなめあてを設定し、グループ活動を行う。
- ☐ 単に「いいね」「なるほどね」といった声掛けだけになっていませんか？
 - * 共感や認めることはもちろん大事だが、学びを促進することには必ずしもつながらない。子供の現在地を把握した上で、**目指すゴールに向かうための声掛けを意図的に行う**。
 - * 例えば、具体的な声掛けや、実況中継のような声掛け（「●●をやっているんだね」「●●のところを工夫しているんだね」）といった声掛けを意識的に行うと効果的。

令和3年度に示した戸田型PBLにするための要件を踏まえた上で…

- ☒ **「誰の何のため」という、対象と目的が具体的かつ明確である**
 - ▲水害を調べて発表しよう⇒必要な防災グッズを親に提案し、家族を守ろう！
- ☒ **解決（目標の達成、理想の実現）をしたかの基準が明確である**
 - ▲ゴミを拾う人を増やすことがゴール⇒ゴミ拾いイベントに100人集めたらゴール
- ☒ **「あなたなら何をするか」という実行方法を問う課題である**
 - ▲防災とは何かを考えよう⇒防災について知ってもらうために私達に何ができるだろうか？
- ☒ **解決したかどうかを検証し、次につなげる活動の時間がある**
 - ▲最終結果をまとめて発表した⇒未解決理由を探り、改善策を考え（実行し）た
- ☒ **振り返りの視点を示し、学びの自覚化を促す時間がある**
 - ▲チェックシートに〇×を付ける⇒何を学び、どう活かすかを子供自身が言語化する
- ☒ **探究的な学習のプロセスを繰り返し、学びを発展させている**
 - 戸田型PBL発展のイメージについては、右記QRコード
 - 「令和3年度 戸田市 指導の重点・主な施策」を参照

PBLがうまくいく10の要件

◆単元づくりにおいて

- ①子供たちの興味・関心、学びの様相を把握している。
- ②材(※)の教材研究を行い、本質的な価値について言語化している。
- ③実現可能な課題となるよう、発達の段階に応じて取組のゴールの難易度を調整している。
- ④問題に対してすぐに解決策を出そうとせず、原因を追究するような単元構成にしている。
- ⑤個々が材に対してもっている知識について全体でつなぐ活動を設定している。
- ⑥材に関わる本物（人・もの・こと）にふれる時間を設定している。

※「材」とは、「教材・学習材・主題」の総称（P.3 ALラーニング指導用ルーブリック参照）

◆授業内において

- ⑦子供たちが学びやすい環境を構成している。
- ⑧グループ等での話合いの際に、話合いの視点を明示的に指導している。
- ⑨子供たちの話合いの様子に耳を傾け、子供たちの活動を深める価値付けや意味付けを適時行っている。
- ⑩「どうして？」「なぜ？」など、理由を問うような問いを子供に返し、子供が自分の言葉で語る時間を保障している。